

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1472201647
法人名	特定非営利活動法人 偕老会
事業所名	偕老ホーム
訪問調査日	平成21年1月28日
評価確定日	平成21年4月14日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1472201647		
法人名	特定非営利活動法人 偕老会		
事業所名	偕老ホーム		
所在地 (電話番号)	神奈川県藤沢市打戻1896 (電話) 0466-48-7812		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年4月14日

## 【情報提供票より】(21年1月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 10人, 非常勤 10人, 常勤換算 14.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての1階～2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	37,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 85.1 歳	最低 65 歳	最高 99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	御所見病院、用田歯科
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

偕老ホームは藤沢市北西、小田急江ノ島線の長後駅からバスで15分ほどの緑豊かな住宅街にある。近くに小学校、幼稚園、スーパーマーケット、ドラッグストア、各種商店、市民センター、郵便局があり、住宅街を中心とした利便性がある生活空間を造り上げている。  
 理念に基づき、職員は利用者を家族として迎え入れ、何事も目的を伝えて「皆で考え、皆で準備し、皆で事に当たる」ことを基本に、共に過ごし支えあい、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。買い物、散歩等の日常外出、バス旅行、パーベキュー、見学会等のホーム催事、小学校の音楽会、地域の夏祭り等の地域行事参加と、外出機会を意識的に多く取り入れている。町内会の行事への参加、積極的なホームの広報等地域交流に力を注ぎ、今では利用者、職員が地域住民と気楽に声を掛け合える関係を築いている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題は「事業所の多機能性を活かした支援」であり、短期利用共同生活介護の指定を受けることも検討された。職員間で話し合った結果、認知症対応型共同生活介護において「自主サービスの充実を図る」という結論に至り、これに向け全職員で努力している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、職員会議で意義が説明され、職員全員が個々に全項目について記載し管理者に提出した。管理者は個別に職員と打合せを行い、最終文書をまとめた。管理者は外部評価を職員研修の一環と位置づけ、レベルアップの機会としてとらえている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は3ヶ月ごとに行っている。会議では事業所側から状況報告が行われると共に、防災への協力依頼、ホームが地域に対してできること等の地域との相互協力について、また介護保険制度の情報提供等、多岐にわたる内容が話し合われている。利用者も全員参加しており、メンバーに利用者の生の声も聞いてもらっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の来訪時には、利用者の状況があるがままに伝え、情報交換している。毎月行事写真を載せた便りを発行し、生活状況を家族に伝えている。金銭の出納報告も月1度行われている。年2回家族会を開催し、家族の意見反映に努めている。苦情相談窓口を明確にし、玄関にも掲示している。職員は家族の来訪や行事への参加時に意見収集に努めている。職員と家族が自由にものが言える関係作りを注いでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、夏祭り、どんど焼き、地域の見学会に積極的に参加している。毎日の散歩や買い物時に近隣の人たちと挨拶を交し、ふれあいを通じて、地域の方に偕老ホームを知ってもらえるように取り組んでいる。今では利用者、職員が地域住民と気楽に声を掛け合える関係を築いている。 近隣の小学校、幼稚園との交流も積極的に行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居される方のあるがままを受け入れます」「入居される方本意の自由にのびのびと過ごしていただける環境を作ります」を始めとする5項目の事業所独自の理念がある。この理念のもとに、地域生活の継続支援と、事業所と地域との関係強化を図っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝の申し送り時に理念を読み上げ再確認している。管理者は折りに触れ理念を共有できるように、現場ケアを通じて指導・助言している。理念に沿わない事態が見られた時はその場で関係職員とミニカンファレンスを行い、徹底を図っている。理念は各ユニットの入り口に分かりやすく掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭り、どんど焼き、季節の花の見学会に積極的に参加している。毎日の散歩や買い物時に近隣の人たちと挨拶を交し、ふれあいを通じて、地域の方に偕老ホームを知ってもらえるように取り組んでいる。今では利用者、職員が地域住民と気楽に声を掛け合える関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員会議で意義が説明され、職員全員で取り組んだ。前回の課題については職員全員が共有し改善に取り組んだ。管理者は外部評価を職員研修の一環と位置づけ、レベルアップの機会としてとらえている。内部研修のテーマとしても「自己評価・外部評価」を取り上げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに行っている。参加者は、地域社協会長、自治会長、民生委員、利用者家族である。また利用者も全員参加する。会議では事業所側からの報告と共に、地域との相互協力について、幅広い地域の情報交換が行われている。また利用者の生の声も聞いてもらう。行政は参加していないが、別途報告の機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム協議会に加入し、管理者は積極的に会の運営に参加している。市と共同で介護教室、研修会を企画・実施すると共に、市担当者幅広い意見交換を行っている。また地域医療福祉ネットワークで、市の福祉窓口担当者と共に会報誌の作成、市民向け広報、研修企画等の活動を行っている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の状況があるがままに伝え、情報交換している。毎月行事写真を載せた便りを発行し、生活状況を家族に伝えている。金銭の出納帳も領収書を添えて一緒に送付している。利用者の心身の状況が急変した場合は、電話等で都度連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、家族の意見を聴き、運営への反映に努めている。重要事項説明書で苦情相談窓口の説明をすると共に、玄関に掲示している。職員は家族の来訪や行事への参加時に意見収集に努めている。また職員と家族が自由にものが言える関係作りにも力を注いでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員、利用者が合同で活動する機会を多く設け、職員全員が顔馴染みになるように努めている。職員全員で利用者を支えることが徹底されており、職員の誰が抜けても、他の職員がカバーできる体制を築いている。管理者は職員間で何事でも言い合える関係作りを目指し、働きやすい職場作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を実施している。テーマは管理者が職員の状況・意見を確認し決めている。職員は成長段階に応じた外部研修に派遣され、職員会議で研修内容を報告すると共に報告書、資料を全職員に回覧している。外部研修の情報は提示され、積極的に希望者を募っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	16事業所が参加する市のグループホーム協議会に加入し、管理者は積極的に会の運営に参加すると共に、3ヶ月に1回行われる研修会に職員を派遣し交流を図っている。県のグループホーム協議会、地域医療福祉ネットワークにも参加し、研修会等を通じて、同業者、関係機関との交流を深めサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による入居前の自宅訪問、体験入居を経て、入居に至っている。管理者は家族に対し利用者に入居の事実を説明することをお願いしている。入居時は家族の来訪を多くしたり、利用者の知人を招き入れたり、職員との一体感を示すことで、不安を和らげる工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者からお手玉の作り方、郷土料理、風習等を学んでいる。献立、事業所の催し等、何事も目的を持ち「皆で考え、皆で準備し、皆で事に当たる」ことを基本に、利用者職員は、共に過ごし支えあい、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時はアセスメントシートを活用し、様々な角度から利用者と家族の意向や希望を把握し、職員間で共有している。入居後は会話を通じて常に意向の把握に努めている。意思が伝えられない利用者には、声掛けを通じ、その表情から読み取るなど意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員参加によるケアカンファレンスで利用者本位のケアの実践について話し合い、利用者、家族の意見を反映させると共に、主治医の指示・意見を取り入れ、総合的な介護計画としている。介護計画の短期目標に番号を振り、ケア記録の記載はその番号と関連付けており、毎日チェックし、常に計画書の課題・目標を意識しながらケアを行うように工夫されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常3～6ヶ月に1回の介護計画の見直しを実施している。職員は、利用者の変化や気づきを日ごろから「ケア日誌」に記載し、随時ミニカンファレンスを開き介護計画の見直しにつなげている。「ケア日誌」は介護計画の短期目標と関連付けて記載されており、効率的に見直しが行われている。医療機関の指示、家族の意思も充分反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力訪問診療のほか緊急指定病院が協力医となっており、利用者の緊急事態に対応できる体制を構築している。訪問歯科診療も随時受診が可能である。医師からの指示、情報を受けるのため管理者が直接医師とコンタクトする場合もある。訪問理容の体制もあり、利用者が選択できる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を主治医としている利用者が大半である。事業所の協力訪問診療を利用している利用者もいる。通院は基本的には家族対応であるが、急を要する場合等必要に応じ職員による通院支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアのあり方については家族会で話し合い、利用者及び家族の希望があれば積極的に取り組んで行くとしている。重度化に向けて、個々に利用者、家族と話し合い、医療連携を含めたホームの対応できる最大限の支援の選択を検討し、方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者へのさりげない声掛けにも気を配り、プライバシーの確保、羞恥心への配慮を心掛けている。利用者との個人的な話は居室でするようにしている。個室にはトイレ、洗面所が設置されている。利用者の個人情報は各ユニットの事務所に施錠して保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日、その時の利用者の気持ちを尊重し、できるだけ本人のペースに合わせた支援を行っている。大まかなスケジュールはあるが、それにこだわることなく、散歩、買い物は利用者が声掛けに応じ、その気になったタイミングで行われていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に献立を決め、一緒に食材の買い出しに行き、三食とも一緒に調理、片付けをしている。職員も同じものを利用者と一緒に食べている。配膳は、できる方は自分で行き、できない方は、職員やできる利用者に手伝ってもらっている。月に1~2回は外食の日を設けている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、朝から風呂を用意し、好きな時間に入ることができるようにしている。入浴したくない方には職員が交代で声掛けしたり、他の利用者の協力を得たり、その気になったらすぐ誘導するなどの工夫している。どうしても嫌がる場合は、無理強いせず、足浴、清拭で対応する場合もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来ること、好きなことを把握し、個別に役割をお願いしている。献立、事業所の催し等、何事も「皆で考え、皆で準備し、皆で事に当たる」ことを基本に、利用者、職員が喜びを共有する関係を築いている。地域の小学校との交流、地域行事への参加も利用者の楽しみの一つとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩等の日常外出、バス旅行、バーベキュー、見学会等のホーム催事、小学校の音楽会、地域の夏祭り等の地域行事参加など、管理者は外出機会を意識的に多く取り入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、各ドアは施錠していない。職員は利用者各々の外出のくせや傾向を把握しており、それとなく付き添ったり、見守ったりして対応している。近隣の協力も得られている。居室には鍵はないが、部屋に入る時は、必ず了解を得るなど、プライバシーは確保されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と職員は月に1度避難訓練を行っている。定期的に消防署の協力を得て通報訓練、消火訓練、避難訓練、備品の点検を行っている。職員が地域の防災訓練に参加し協力関係を深めている。運営推進会議等を通じ地域の協力を呼びかけている。非常食、飲料水、備品等を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は毎回記録している。管理者は栄養マネジメントを専門的研修で学び、1日30品目、水分1000ml以上の摂取を目標に気配りしている。利用者の好みや状況に合わせ、ミキサー食、とろみ食、きざみ食等の提供を行っている。食事量が減ってきた利用者については、医師から専門的アドバイスを受け、低栄養状況の利用者に対する補助食の処方、高カロリー食の取り入れを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルには、庭から季節の花を摘んで飾り、季節が感じられるようにしている。廊下やリビングには、利用者と職員とが一緒に作った作品や旅行の時の写真が飾られ、利用者がゆっくり居心地よく過ごせるように工夫している。ほとんどの利用者はリビングで皆と過ごす時間を好んでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、クローゼット以外は事業所が設置した備品はなく、利用者と家族が自由にレイアウトしている。使い慣れたたんす、椅子、衣装ケース、仏壇、テレビ、マスク、写真等が自由に配置され、利用者が居心地良く暮らせる空間となっている。居室には洗面台、トイレが完備されている。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	偕老ホーム
(ユニット名)	ひばり
所在地 (県・市町村名)	神奈川県藤沢市打戻1896番地
記入者名 (管理者)	熊谷 真理子
記入日	平成 21 年 1 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票 ひばり

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が皆で作り上げた独自の理念がある 理念の中には自由にのびのびと生活していただけるような環境づくりを行うことをあげている 地域の行事に参加したり、近所の方にあいさつを交わしたり、商店街で毎日買い物に出かけ、ホームのことを知って頂くように取り組んでいる	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り時に読み上げて再確認している。また管理者は折に触れて理念の深い意味をも共有できるように、ケアを通じて説明を行っている。良い意味で入居者も職員も言いたい事が言え、入居者のできる事をみつけ笑いのある日々を過ごしていただけるように努力している	日々のケア、業務の中で理念に基づき行っているが、違っていることがあれば、ミニカンファレンスを行うようにしている 新入職員には、もっと具体的に分かるような補足したい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や来所される方には大きく書いてホーム内の数箇所に表示している。また地域保健福祉ネットワークや運営推進会議で伝えたり、ホーム便りに載せ知らせている。取り組んできて家族や地域の人々に徐々に理解して来ていただいている	地域の行事に参加したり、またホームの活動状況や入居者の様子を知って頂くために、ホーム内の行事に招待し、一緒に過ごしていただけるように働きかけている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関は開放し、あいさつは必ず行っている。自宅で採れた物をいただいたり、ホームで手作りのものをおつそわけしたり、行事に招いている 町内会に加入し回覧板も回していただき、ゴミ当番等に参加している	納涼会には、地域の方に参加していただけるように、ポスターを商店の所に貼らせて頂き、年々増え多くの方に来ていただき楽しんでもらえた
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも加入し、回覧板も来るので、地域の行事にはできるだけ参加している、買い物にも毎日出かけて、商店街を利用するようにして、地域の方に偕老ホームを知って頂ける様になって来ている	地域の一員として浸透してきている。 入居者が一人で外に出かけたときは、近所の方が知らせてください、協力を頂いている 地域全体で行っている防災訓練にも参加した

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	災害時の協力や、認知症の方の対応の仕方など、運営推進会議や地域保健福祉ネットワーク等では呼びかけている。地域保健福祉ネットワークでは、便りに掲載させて頂いた。また地域の介護教室では管理者が講師となり認知症ケアについての研修を行った		今後も働きかけを行うと、共に地域に貢献出来る事があれば継続していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するに当たり、職員会議で説明され、全員で自己評価に取り組んだ。常に課題については職員会議で話し合い、改善計画を立て実施に取り組んでいる。外部評価を実施する事により、自己を振り返るよい機会を得ていると思われるし、自己啓発し向上心が芽生える		日々の努力が、外部に評価されることは、次のステップに繋がることを周知して行きたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの様子を伝えると共に、ホームが地域に貢献出来る事や、地域の方々に協力を頂いていること、また協力して頂きたいこと等を話し合っている。また入居者の方からホームでの生活について直接聞いて頂いている。会議の内容は、ホームの事だけに止まらず、介護保険法制度、地域の防災、行事等あらゆる事が挙げられている		会議に止まらず、行事に参加していただいたり、入居者の方たちに、民謡を教示していただいたり、将棋の相手をしていただいた。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会に参加して、事業所間の情報交換を行ない、又研修等で質向上に取り組んでいる		市と共同し研修会を開催しているまた提案・要望等も話し合っている
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	他の機関が実施する研修会を家族に情報提供を行ったが参加者は得られなかった。職員は学んでいるが、必要とされる対象者の方がいないこともあり活用していない		現在まで後見人(家族)の協力が得られ問題なく来れているが今後検討して行きたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して、理解を深め防止に意識を強めるよう努めている。職員会議にて、困り具合や気になる事を言い合うことにより、気持ちの負担を軽減し虐待につながらないようにしている。またお互いに注意し合っている、また一日の報告を管理者にすることで指示を貰っている		無意識の中での言葉の虐待に気をつけることが大事である。職員間のコミュニケーションが取れ、お互いに注意し合う事ができるように努める

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項は丁寧に説明を行い、一度でわからない場合もあるので、一度持ち返って頂き、後日質問をいただき、十分な説明をしている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	基本的には入居者の方が言いたい事が言える雰囲気作りに取り組んでいる。月1回介護相談員の訪問を受け入れ、自由に入居者の方と会話して頂、その内容を管理者に伝え、管理者が改善案を含め職員へ伝えている。カンファレンスが必要な場合には会議で話し合う。		職員は自身で表現できない方は、本人の行動や言動から気づけるように努めている
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪の時には、入居者の状況があるがままを伝えている。毎月便りを発行し報告している。また家族会を開催し伝えている。金銭については、小口現金収支報告書と領収書を添えて毎月報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談できる機関の連絡先を重要事項にも載せている、また担当者を玄関の目につくところに掲示している。管理者・職員全員が常に家族の意見を聞けるように心掛けている。		家族会においても意見を出せるように働きかけている
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間のコミュニケーションを良くすることまた善い意味で言いたいことが言える雰囲気作りをしている。職員の提案や意見を反映させ質の向上に取り組んでいるまた理事会に於いて運営者側に直接意見を述べる事ができるようになった。		職員の意見を反映させるために、行事企画や係りを決め、担当者だけではなく、実施日までの過程を大事に取り組み、入居者も含め一致協力し実行している。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	近隣の方で重度の方が入所され、また年数が経過していく中で、認知症状が重度化し、3対1体制のケアでは対応ができないことが増えてきたため、時間帯に応じた勤務を追加(D勤務)体制にした。また入居者の要望により個別に外出している。通院等も同行したり、家族に代わって受診している。		認知症ケアは個別ケアが十分必要なため、精神的に疲労感が大きいため、職員が自由に有休が取れ、研修に行ける、ゆとりを持った体制の確保に努力しているが、人員不足の折りから募集をしても補充ができず、管理者や一部の職員へは負担がかかっている社会的問題となっている、人員不足と低賃金が常に脅かされていることは、事業所だけの問題とは思えない
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常日頃から、ユニット間の交流や、外出する機会が多く地域の方との交流がある、また来客が多いためか、影響は感じられないが、馴染みの職員が継続的に支えることは、入居者にとっても落ち行いて頂くことになる事を常に伝えている。		職員がどの入居者でも対応が出来るように、週1回ユニット全体送りで、情報交換や、活動の打ち合わせをして、合同で活動する機会を設けている。働きやすい職場作りを全員で取り組んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員会持には勉強会を実施、外部研修の情報は随時提供しているまた受講を積極的に進めている。また職員会議にて研修の内容を報告し、報告書も全員に回覧している。小さな図書コーナーもあり自由に利用できる。		管理者は常に疑問やケアに対して不安があれば相談するように伝えているし、毎日の報告時にはアドバイスや指示を行っている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会に参加している。市の協議会では、他の同業者と協働しながら質の向上に取り組んでいる。またお互いの行事に参加し、学び研鑽している		今年度から市の協議会では、研修会を始め多くの参加者があり、今後も積極的に参加していきたい。また職員は他ホームの様子や他の職員との交流の機会を作ることができた。同業者での行事や学習会に入居者と共に参加させていただいた。(夏祭りにバザーのブースに参加する事ができた)
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	別な部屋にて休息を取れる様になっている。慰労会を行い労っている。職員同士が、忌憚のない意見を言える雰囲気作りに努力している	○	精神的に負担が多いので、ゆとりある勤務体制をしたいと人員確保に努めているが、希望通りに確保できず、負担をかけていることもあるが、今後も継続して求人募集していくまた職員はお互いに認め合い、助け合っていけるように、楽しく仕事ができるような職場づくりを目指し努力している
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	十分ではないが、職員の努力や成果を認めていると思われるが、現場で起きている状況や変化にはあまり理解していない。就業規則にのっとり、職員の健康診断、細菌検査など実施している		管理者・職員は常に向上心をもって努力しているが、運営者はキチンとした考えと計画性を持って、将来に向けて働き甲斐のある職場になるよう取り組む努力をしてほしい
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当職員が、利用される前には必ず自宅(生活の場)を訪問し、本人の話を聴くようにしている。また生活状況を確認し、入居されてからも訪問した職員が中心に関わるように努め、少しでも共通な会話ができるようにしている。本人の思いや不安を受け止め、どう支援して行ったら良いか職員と話し合い、本人が安心して頂く様に努力している		職員は本人の思いや不安を受け止め、安心してもらうように取り組んでいる。常に本人が今何を思っているか、何を支援して欲しいのか、ミニカンファレンスを行い、情報交換し、統一したケアに努めている
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初めて相談や見学に来られたときは、本人の症状を聴くと共に、家族の困っていること、望んでいることをしっかり聴いて不安や悩みの解消に努め、ゆっくりホーム内の様子をお茶を飲み、入居者と共に会話しながら観て、感じて頂いている		認知症ケアのあり方についての、話をさせて頂き、介護疲れを労うことで、涙される方もある。ケアの仕方が分からず困ったことなどのアドバイスをしながら、偕老ホームでのケアのあり方をお話している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的にはどんな相談事でも受け入れて、役に立つように心掛けている 相談に来られて、直に受け入れられない場合には、他のホームを紹介している。また他のサービスの情報や機関名を伝え、繋いでいる		本当に在宅での生活が困難であるか、本人にとって、家族にとって、どうあるべきか一緒に考えるようにしている 入居を希望されていた家族がもう少し在宅で介護して見ますと又相談しますと言われた家族もあった
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所に当たっては、いきなり連れてくるのではなく、忘れてしまうが本人へホームへ入所することを伝えて頂くようお願いしている。また入所するまでに本人も家族も慣れていただけるように、その方によって日程は異なるが体験をして頂いている。		本人と家族も知人も気軽に遊びに来ていただき、みんなと顔見知りになる事で、不安を和らげていけるようにしている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に一緒に行動することで、喜怒哀楽を共有している。入居者の昔の話の中から、好み料理・昔懐かしいものを取り入れるように努めている。細かいことでも手伝って頂いたときは、常にねぎらいの言葉掛けを行なって、感謝の意を表している		職員はが大変なときは自ら手助けしてください。生活の中から昔のはなしや、知恵を聞き、また献立を決めたり、郷土料理などを教えてもらうこともある
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を伝え、また本人の昔の様子を伺うようにしている。また入居されるまでの、介護の悩みを共有し、一緒に笑う事もある。細かいことでも気付いたこと等は、家族に提案して協力を頂いている。いつでも来て頂ける様に面会時間は決めていない。家族で毎日のように訪問して下さり、食事介助、家事、見守りの協力を頂いている		来所持にはお茶を出して、また一緒に活動していただき、他の入居者の方と共にゆったりと過ごしていただいている 行事などでは殆どの家族が来て手伝いをして下さるので感謝している
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が参加できる機会をつくり、共に過ごしていただけるようにしている。家族には本人の良いところ、努力している様子、困っていることも何でも伝えて協力を頂いている。本人が家族のことを気にされるときには、家族の言動を伝えることで、家族も大事に思っていることを伝えている		外出・外泊も自由にして頂いている。 行事等に参加されたときは、お客様ではなく、お手伝いをしていただき、手作りの食事やおやつ、漬物を提供し、共に楽しいひと時を過ごすようにしている
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣に居住されていた方は買い物や散歩など外出時に、知人に会ったり、場所の確認をしたり、自宅に行くこともある。知人・友人・親戚の方の訪問は時々ある。本人の希望があれば支援する。家族の協力や個人差がある。		今までの生活の延長線上であるように、つながりを継続してほしいと働きかけているが、本人が忘れてしまわれると友人・知人の関係は少しずつ途絶えていく場合もあるが、新しい馴染みの関係が作れている
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	たびたびに外に行かれる方を心配されたり、職員が気がつかないときには教えてくださるなど、助け合う場面も見られ、不安で落ち着かない時は、話し掛け慰めてくださっている。入居者の個性を尊重し、役割作りに職員が配慮してお互いが仲良く支えあって馴染みの関係で暮らしている		職員中心のケアではなく、入居者を尊重し、共に暮らすケアであることを指導している。 ここは偕老ホームです。お年寄りが仲良く笑って過ごすところですとリビングに掲示してあるし、食事やお茶の時間等で話している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された家族でも近くに來られたときは、気軽によって下さったり、行事などにも参加して下さっている。また入院された方はお見舞いに行き様子を見ている		亡くなられた家族からお便りを頂いている。外で会うと声を掛けて下さることもある
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアの中で、どのように暮らしたいか、言葉で表現しない方には、表情や行動から汲み取り把握に努めている。特に誕生月にはお祝いを含め希望を実行している(個別で行きたいところに行く・好きな食べ物を用意する)		楽しく暮らしていけるにはどうしたいか、どう支援していけばよいか常に考えて、職員間が共有していくように指導している。日々のミニカンファレンスやケースカンファレンス・ワーカー会議において検討している
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴やライフスタイルは把握している。入居されてからも家族にこれまで、どう生きてきたか、性格、好きなもの、嫌いなもの等、を機会あるごとに聞き、その方の個性や価値観を尊重するように努めている		入居時には新しい物をそろえるのではなく、今まで使っていたものを用意して頂いている。仏壇を持ち込んでいる方には朝ご飯を供えるなど行っている
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握している。できること、わかること、どこへ支援を必要としているかを見極め、生活の中に取り入れる努力をしている		職員間の情報交換を短い時間でも話し合ったり、記録や申し送り時などで行なっている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書はファイルされて職員が目につくようにしている。一人ひとりに合った計画を立て、変化があったときは、送り時、カンファレンスを行い、ケアにつなげている。業務日誌や職員ノート、担当者会議録を通じて周知している		本人を含めてのミニカンファレンスを行ない、どうしたいか聞くこともある。問題点は常に職員や家族と意見交換をしているし家族の協力も得られている。みんなでより良いケアに努めている
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	画一的なサービスではなく常に変化するときは、常にカンファレンスを行い現状に即したケアを行うようにしているが、すぐに計画作成をする努力はしているが、遅れることもあるため、家族に伝え協力して頂くこともある		人材不足の折りから、計画作成者は管理者でケアスタッフでもあり事務仕事も行なわなければならない、ケアプラン作成が遅れがちになる。現状を家族にも理解していただいているが、頑張っ作成したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌には個別に記録する、気づきは入居者本人の言葉で記録するようにしている、連絡事項は業務日誌・職員ノートに記録し、また繰り返し送ることで、情報を共有し、より良いケアに努めている		ケア日誌に短期目標項目番号を記載し、毎日できているか、できなかった確認している。またケース会議に於いてモニタリングしたことを計画作成者がまとめている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は単独であるために、他機能性は活かしていないが、家族が都合付かないときの受診や、介護が大変だったり説明が上手くできない時は通院同行している。美容院、個別の買い物など必要に応じて支援している		家族ができないところは対応している。訪問診療・訪問歯科・訪問理容もあり、選択していただいている。家と同じように捉えている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には運営推進会議のメンバーとして協力いただいている。警察の方は調査に来られている。消防署は避難訓練時に協力を頂いている。小学校や幼稚園の運動会や発表会には招待を頂いている。公民館の催しに参加している	○	近所の中学校の職業体験学習を受け入れるた。近所の小学生が訪問し、音楽会の招待状を持参し参加した。また読み聞かせや合奏を披露した
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用はしていないが、常に地域の活動に参加しているし、他のグループホームと交流して、バザーや行事などに参加しあっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター単独では行っていないが、地域保健福祉ネットワークにおいて協働している		地域保健福祉ネットワークの構成は、包括支援センター、民生員、地域社協、福祉施設、老人会、医療関係、市役所関係等で組織されている。会報誌、市民向け介護・医療の情報と研修を行っている
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりが入居前の医療機関を利用されている。病状についてはご家族も十分に知って頂きたいとの事から定期受診は家族にお願いしているが、急を要する場合、また家族の状況により、ホーム側で受診や同行は行っている。		病状が悪化し、たびたびに受診になることもあるので、家族や職員の負担も増えてくるので、家族と共に相談し、訪問診療を利用されている方もいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではないが、訪問診療の医師は良く話を聞いて下さり、指示や助言をくださる。周辺状況がはなはだしときは、家族と相談した上で、専門医へ受診している。また受診時日頃の様子を細かく記載して情報提供している。また同行する		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在は必要と思われないので協働していない		緊急時は24時間対応の協力病院へ連絡している。また訪問診療医師へも相談できる
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は情報提供を行い、家族と共に医療と相談している 完治していなくても、認知症で十分な治療ができないと、退院させられることがあるが、本人のために受け入れている		退院後の指導や嚥下障害の方の食事の作り方や摂取の仕方について、入院先の栄養士やOT、ナースの指導を受けている
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルについては家族会で話し合い、今後は本人や家族の意向を聞き、本人にとって一番良い方法と、ホームが対応しうる最大の支援方法を検討していきたい	○	高齢で持病がある方、食事や水分が取れない方、食事・入浴・排泄に介助が必要な方、認知症状が重度な方、常にターミナルと考えている
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ほぼターミナルに近い方々をケアしているが、ホームにて亡くなられた方はまだいない。本人・家族の希望があり、利用者を支えるためにどう支援していったら良いか検討していく		家族会でも話し合っているが希望されてはいないし、医療の選択が安心と思われている
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人の了解を得て、関係機関とホームでの生活状況や、ケアのノウハウなど情報提供している		特養へ入所希望される方には、書類の提出協力や相談員へ情報提供している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>さりげない言葉掛けや内容に気をつけている。記録は個人情報として鍵のかかる場所へ入れて、取り扱っている。個人的な話は自室で聴くようにしている</p>	<p>職員へは入職時に守秘義務の誓約をしている。また会議等でも指導している</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人ひとりの能力に応じた、役割づくりを行っている。本人が決定できないときは、その方が分るような話方をして、表現できるように働きかけている。また選択できるような場面をつくり、納得していただけるようにしている</p>	<p>食事のときは自分のものは自分で選び配膳している 職員は本人の希望、関心、嗜好等は把握しているが自分で選び決定できるようにしている</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は入居者のペースをつかみ無理強いはいらない。外出など計画していても、一人ひとりに意思を確認し、入居者の体調や気候を考慮し、その日の行動を決めている</p>	<p>人として、してはいけないこと以外は、あるがまま、何でも言い合える雰囲気づくりをしている</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理・美容は行きつけの所へ、家族や職員が同行し、外出が困難な方には、ホームへ来ていただくように依頼している。行事の際には化粧をして、マニキュウを塗り、衣服を整えたりして、とても喜ばれている</p>	<p>納涼会には浴衣をきて、とても喜ばれた</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日一緒に買い物に行き、食材を選んでもらい、必ず食べたいものを購入し、三食とも職員と共に調理、片付けを行い、職員も同じものを一緒に食べている</p>	<p>誕生日には必ずその方の好みの物を振り入れている。また月に1～2回は外食に出かけ、自由に選んで頂いている。またちょっと買い物のついでに、おやつを食べに出かけたりしている</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>食べることは皆さん喜ばれるので、できる限る好みのものを提供している。飲み物やおやつは種類を多くし選択できるようにしている。また本人の希望を取り入れ、一緒に買いに出かけることもある。特に制限はしていないがお酒は行事など機会あるごとに提供している。</p>	<p>食事の雰囲気や音楽を大事にして、音楽を流したり、会話を楽しんだりゆったりした時間を過ごしている 季節の手作りのおやつや飲み物を入居者と作り、来客や家族にも提供している</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとり排泄リズムをつかみトイレで排泄できるように努めている。紙パンツやパット使用されている方もトイレ誘導をしている。また自室にトイレが付いているので待つこともなく、本人の訴えがあればいつでも誘導している。失敗してしまったときは、気にすることなく、自室でゆっくり更衣する事ができる。		入院されてオムツになって退院してこられる方については、排泄状況を記録して、オムツ外しに仕組み、できるだけトイレを使用するようにしている
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日朝から風呂の用意を行い、本人の同意を得てから入っていただいている。入浴が嫌いで入ってくださらないときは、言葉掛けや対応の工夫、チームプレイによって気持ちよく入っていただけるようにしている。季節によっての入浴も楽しんで頂いている		入浴が嫌な方は、時間をずらしたり、職員が交替して声掛けたり、他の入居者の協力を得たり、その気になったらすぐには入れるようにしている。どうしても嫌がられた時は無理示威せず、足浴や清拭で対応している
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動していただき、夜間は良眠できるようにしている。疲れた時は個別に休息していただいている。寝付かれない方や眠りが浅い方は、温かい飲み物を提供したり、会話や傍に居るなどしているが、本人が辛い状況があれば家族や医師に相談している		夜間良眠できるように、日中の活動に努力している。短時間でも1日1回は外気に当たるように、外に出かけるように努め、出かけられないときは、屋上やテラス、玄関周りに椅子があり、そこで過ごすようにしている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできること、好きなことを把握しているので、その方に合った役割を持っていただいている。行事・外出する機会を多くし、生活にメリハリができ、気分転換を図っている		職員が困っていると手助けして下さり、都度お礼を言うようにしているので、人の役に立つことは嬉しいと言われる。家族にも活動されていること、助けられている事などを本人の前で伝えている
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には小口現金預かりをしている。お金を気にされるときは、お預かりしていることを伝えている。食材や自分の物を購入する際には、できる方には支払って頂くようにしている		自分の物を購入するときは、自分で買い物に行き、支払いもして頂いている。買い物ツアーを企画し、本人がほしい物を買っていただいた。家族と相談し自分で財布を持っている方もいる
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出はとてども好まれ、元気である元であることを実感していますので毎日の買い物から、外食、手作り弁当を持って公園など、あらゆるところへ出かけるように努めている		年間計画、月間計画を職員が担当し、季節ごとの計画を立て、担当職員のみならず、入居者も職員もみんなで準備し楽しく過ごせるようにしている。家族の協力も得ている
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日に希望を聞き、個別に出かける方もある。外出の機会を多く設け、家族や親戚の方と自由に出かけていただいている。現状が把握できないときは、職員が下見に出かけて行くこともある。家族と共に花見やバス旅行にも出かけている		近隣だけではなく、車で出掛けている。季節ごとの草花見学や公園散策、食事会等バス旅行の下見などは、家族も一緒に行ってください、計画から協力して頂いている。今年は箱根へ紅葉見学と温泉へ行った

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、いつでも利用できるようになっているが電話を希望される方が少ない、電話に出ても理解されないことが多いが、必要なときには代弁し一緒に行くようにしている。		難聴や理解力の低下による支援を行なっている 電話中はゆっくりと話せるようにしている 手紙は本人へ手渡ししながら会話対応をしている
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間も設けていない。皆さんが喜んでいただければどなたでも歓迎している。家族も本人の部屋だけではなく、リビングでお茶を飲んで頂き団楽している		いつでもどなたでも歓迎している
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に管理者からの指導されており、拘束しないケアを行っている 困ったときはカンファレンスを行い、直実行している、家族にも協力を頂いている		ベッドからの転倒の危険がある方には、布団に鈴をつけて気づく様にしている。立ち上がりの危険のある方には、職員の目が届くところに居て頂くようお願いして、動きたい時は気が済むように支援している。また他の入居者の方へも協力をお願いをしている
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を理解している。センサーも使用していない。玄関や窓には鍵を掛けない、自由に出入りができるようにしている。外に出られたときは一緒に同行している		職員は出て行くようすを理解しているので声を掛け、見守りをしている。家族にも鍵を掛ける弊害を説明し理解して頂いている。 毎日徘徊される方の時間やコースその時の距離までも把握出来ているまた同行中に会話対応を行ない、自ら帰宅される
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングの担当を決め、その場を離れるときは、他の職員へ声を掛けることで連携し把握している。部屋で過ごされるときは時々声を掛けて、様子を確認している		自室から出てくると必然的に、リビングへ出てくるような造りになっているので、見守ることができる
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類は風呂場の棚に収納場所を設置し、鍵がかかるようにしている。夜間包丁は収納箱に入れ、手の届かないところへ保管している。工作用のはさみやカッターは引き出しに入れている		爪切りは自分でできる方は自室に保管されているので定期的に確認させていただいている
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修を受けている。想定される事故の場合は職員で話し合い防止に努めている。火災や災害に備え、毎月避難訓練日を設けて実行している。また年2回は設備業者と消防署の協力で避難訓練や消火訓練を行っている。小さなことでもヒヤリハットに記録し、当日早急にミニカンファレンスを行い対策を行い職員間で共有している。家族にも伝えている		入居者の状態を把握することにより、対応策を検討し防止に努めている。誤薬がないように、個別の薬入れを設け、二重のチェックを行っている。また入居者がどのような薬を服用しているか、職員が把握できるように、薬の説明書をファイルしている。事故が発生した場合には市町村へ報告している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当、緊急時の対応マニュアルは作成されているが、全ての職員が訓練を定期的には行ってはいない。緊急時は協力病院や救急車要請が2～3分以内にはできる。運営者や管理者、協力職員も5分以内には駆けつけられる		今年は近隣の事業所と協力して、職員は救急救命法等の学習を実施した 外出時は保険証コピー・緊急連絡先、既往歴・服薬などの情報を記載した書類を持参し、緊急時に活用している
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や避難路の確保し、設備の定期点検も実施、入居者と職員は毎月1回避難訓練を行い、年2回は消防署、業者の協力により通報訓練や消火訓練、避難訓練を実施している。地域の総合防災訓練に参加している		非常用食料・備品は準備している。今後どんなものが必要か検討し追加していく。運営推進会議において地域の災害についても、ホームの方向性を話し情報交換している
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	職員は入居者の一人ひとりに起こり得るリスクについて、常に個別カンファレンスを行い対策を検討し、全職員が共有し危険がないように務めている。家族に対しても状況を説明し、協力を頂いている		家族には変化状況やケアの変更も細かく伝えているので理解していただいている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から一人ひとりの持病についての変化状況を確認しあい、情報も職員間で共有している。日勤リーダーを決め変化があったときは、バイタルチェックを行い、通常との変化状況を、直に管理者に報告し指示を仰いでいる。また状況を記録している		変化状況や対応については記録を行い、家族にも知らせている。受診する場合は状況を報告している
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されたときのお薬の説明書を確認している。入居者の方がどんな薬を服用しているか確認している。体調や服薬状況の様子を家族や医師に情報提供している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	学習会や研修会で理解している。食事にも注意している、日中の活動にも気を付けて、少しでも動いてくださるように工夫している。食事には野菜を多く取り入れ、水分も多く摂れる様に働きかけ、好みのものを取り入れている。便秘薬を必要とされる方については医師の指示通りに行っている		野菜が苦手な方については野菜ジュースなど繊維質の多い物を工夫している。水分にも十分気を付けている。便秘になると落ち着かれないので、日頃から特に注意している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の手入れが大事であることは、学習しているので、毎食後声を掛け、介助が必要な方は支援している。紛失してしまわれる方は、入れ歯の管理を行っている。口腔ケアの仕方などは歯科医師に訪問していただいたときに学んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや摂取量は把握している、常に栄養バランス良く摂れる様に献立を工夫している。一日の摂取量、水分量は記録している。毎身体重測定、健康診断結果、その方の疾患等によっても、食事内容・形態を個別に行っている		目安として1日30品目摂れるように心掛けている 食事が低下している方やミキサー食を用意している方については医師と相談し、補食となるようなものを処方していただき、また高カロリー食品を取り入れている
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員も入居者も帰所時には手洗い、うがいを徹底している。食事作りの際は手洗い後、消毒を行っている。対応マニュアルを作成し周知している。毎年研修会に参加している。1日に1~2回は換気を行うようにして、流行時には特に注意を払うようにしている。毎日のトイレ掃除は、ノロウイルス対策として除菌している		流しや洗面所には標語を貼り、手洗い、うがいを励行 感染予防研修で学んだ、感染予防グッズを入れたバケツを設置、入居者・職員全員がインフルエンザ予防接種を実施した
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所重点清掃日を設けている。まな板包丁は毎日消毒を行ない、布巾類は使用したものは洗濯に回している。食材は毎日購入している。冷蔵庫は週1回清掃し、在庫一掃している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の草花を植え、ベンチを置き入りやすい雰囲気作りを行っている。ベンチで外気浴、休憩、花火などをして過ごすこともあり、近所の方とあいさつを交わし、会話を楽しむこともある		玄関の飾りは季節ごとに、入居者と共に作品を飾りつけて、季節感を表し、来訪者も目を止めて観て下さっている
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルには季節の草花を庭から摘んで飾るようにしている 廊下やリビングには、入居者と共に撮った写真や、共に作った作品を飾っている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやテレビのあるソファの場所、畳の場所があり、自由に過ごしていただいている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使い慣れたものを持ってきて頂くようにして、部屋の設定もできるだけ今までに近い状態をお願いしているので安心されている。仏壇を持ち込んでいる方もあり、お供えをしている。自室は入居者が好きなように使用されている。殆どの方は一人自室にいることは少なく、みんなで過すリビングにすることが多い。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には常に気を配り、朝は外気を感じていただけるように、リビングの窓を開放し、掃除を行うようにしている。エアコンはこまめに掃除し調節している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の変化に応じて、低椅子、車椅子、キャスター付椅子を使用し、バリアフリー、手すりを設けている。入居者が作業しやす調理台があり、立位が不安定の方には、椅子に掛けて作業をして頂いている		入居者の身体能力に応じて、ベッドや家具の位置関係を考慮している
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できること、できないこと、支援がどれだけ必要か、変化状況も職員間で共有し、混乱や失敗が無いようにしている。混乱されている時は寄り添い、失敗には過剰に反応せず、そっとフォローし失敗しても大丈夫であることを伝えている。部屋が分らない方には、本人が分るように名前や目印を付けるなど工夫している		深い認知症になられてくると、人により混乱が日内変動が激しくみられるので、一人にかかるケアに時間がかかることが増え、他の入居者の方のケアが疎かになったり、業務が滞ることがあるので今後検討したい
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関、テラス、屋上には職員・入居者・家族と共に草花を季節ごとに植替えて、水遣り、手入れをしている。またベンチを置き食事やお茶を飲んで楽しく過ごしている。屋上からは富士山が見え外出困難な方には外気浴や気分転換を図っている。外回りには植栽され、裏には菜園を作り、収穫を楽しみ、草取りなどには家族の協力を得ている		家族には外のベンチのペンキ塗りや植え木の手入れをしていただいた。また畑には夏野菜はもちろん今年は畑にさつま芋を植え収穫を喜び、焼き芋をして食した

. サービスの成果に関する項目		ひばり	
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

食事は入居者が食べたいものを聞き取り、買い物、調理の一連を一緒に行っている。外出の機会を多く取り入れ気分転換と体力保持に努めている。地域の行事に積極的に参加し、ホーム内の季節の行事に家族も参加していただき、共に楽しんでいる。職員も入居者も家族も楽しく過ごせることをモットーにしている。季節の行事企画、月間・週間アクティビティ企画は担当を設け、入居者と職員全員で準備していく過程を大事に、その日を迎えるようにしている。日々様子から、行事に至るまで、常に写真、ビデオを撮って、みんなで楽しんでいる。毎年写真展を行い1年間のホームの様子を皆さんへ伝えている。いつも入居者が笑顔でいられるように努めている。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	偕老ホーム
(ユニット名)	楓
所在地 (県・市町村名)	神奈川県藤沢市打戻1896番地
記入者名 (管理者)	熊谷 真理子
記入日	平成 21 年 1 月 12 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票 楓

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が皆で作り上げた独自の理念がある 理念の中には自由にのびのびと生活していただけるような環境づくりを行うことをあげている。地域の行事に参加したり、近所の方にあいさつを交わしたり、商店街で毎日買い物に出かけ、ホームのことを知って頂くように取り組んでいる	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り時に読み上げて再確認している。また管理者は折に触れて理念の深い意味をも共有できるように、ケアを通じて説明を行っている。良い意味で入居者も職員も言いたい事が言え、入居者のできる事をみつけ笑いのある日々を過ごしていただけるように努力している	日々のケア、業務の中で理念に基づき行っているが、違っていることがあれば、ミニカンファレンスを行うようにしている 新入職員には、もっと具体的に分かるような補足したい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や来所される方には大きく書いてホーム内の数箇所に表示している。また地域保健福祉ネットワークや運営推進会議で伝えたり、ホーム便りに載せ知らせている。取り組んできて家族や地域の人々に徐々に理解して来ていただいている	地域の行事に参加したり、またホームの活動状況や入居者の様子を知って頂くために、ホーム内の行事に招待し、一緒に過ごしていただけるように働きかけている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関は開放し、あいさつは必ず行っている。自宅で採れた物をいただいたり、ホームで手作りのものをおっそわけたり、行事に招いている 町内会に加入し回覧板も回していただき、ゴミ当番等に参加している	納涼会には、地域の方に参加していただけるように、ポスターを商店の所に貼らせて頂き、年々増え多くの方に来ていただき楽しんでもらえた
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも加入し、回覧板も来るので、地域の行事にはできるだけ参加している、買い物にも毎日出かけて、商店街を利用するようにして、地域の方に偕老ホームを知って頂ける様になって来ている	地域の一員として浸透してきている。 入居者が一人で外に出かけたときは、近所の方が知らせてください、協力を頂いている 地域全体で行っている防災訓練にも参加した

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	災害時の協力や、認知症の方の対応の仕方など、運営推進会議や地域保健福祉ネットワーク等では呼びかけている。地域保健福祉ネットワークでは、便りに掲載させて頂いた。今後も働きかけを行うと、共に地域に貢献出来る事があれば継続していきたい		小学校の子供たちに訪問してもらったり行事に参加し、老人とのふれあいを楽しんでもらっている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するに当たり、職員会議で説明され、全員で自己評価に取り組んだ。課題については職員会議で話し合い、改善計画を立て実施に取り組んで行く。意義については、常にワーカールームに掲示し朝礼に読み上げている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの様子を伝えると共に、ホームが地域に貢献出来る事や、地域の方々に協力を頂いていること、今後も協力していただきたいことなどを話し合い、また入居者の方からの直接の声を聞いていただいている。お互いの質問事項に対してもホームのことだけに止まらず、介護保険法制度、地域の防災、行事等あらゆる事が挙げられている		会議では入居者の手作りのお茶菓子などでもてなし、接待もしている。また談話の中に入ってもらい、共に過ごしていただいている
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会に参加して、事業所間の情報交換を行ない、又研修等で質向上に取り組んでいる		市と共同し研修会を開催しているまた提案・要望等も話し合っている
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	他の機関が実施する研修会を家族に情報提供を行ったが参加者は得られなかった。職員は学んでいるが、必要とされる対象者の方がいないこともあり活用していない		現在まで後見人(家族)の協力が得られ問題なく来ているが新しく入居された方が後見人制度を利用されているので、情報をお聞きしながら家族会で今後検討して行きたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して、理解を深め防止に意識を強めるよう努めている。職員会議にて、困り具合や気になる事を言い合うことにより、気持ちの負担を軽減し虐待につながらないようにしている。またお互いに注意しあうことや一日の報告を管理者にすることで指示を貰っている		無意識の中での言葉の虐待に気をつけることが大事である。職員間のコミュニケーションが取れ、お互いに注意し合う事ができるように努め、困ったことがあれば意見交換ができるようにしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項は丁寧に説明を行い、一度でわからない場合もあるので、一度持ち返って頂き、後日質問をいただいて、十分な説明をしている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>基本的には入居者の方が言いたい事が言える雰囲気作りに取り組んでいる。月1回介護相談員の訪問を受け入れ、自由に入居者の方と会話してもらい、その内容を管理者に伝え、管理者は改善案を含め職員へ伝えている。カンファレンスが必要な場合には会議で話し合う。</p>		<p>職員は自身で表現できない方は、本人の行動や言動から気づけるように努めている</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が来訪の時には、入居者の状況があるがままを伝えている活動時には常に写真を撮ることになっているので、毎月のホーム便りを発行し報告している。金銭については、小口現金収支報告書と領収書を添えて毎月報告している。</p>		<p>ご家族の面会が多く、伝える機会がある</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・相談できる機関の連絡先を重要事項にも載せている、また玄関の目につくところに掲示している。管理者・職員全員が常に家族の意見を聞けるように心掛けている</p>		<p>家族会においても意見を出せるように働きかけている</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員間のコミュニケーションを良くすることまた善い意味で言いたいことが言える雰囲気作りをしている。職員の提案や意見を反映させ質の向上に取り組んでいるまた理事会に於いて運営者側に直接意見を述べるできるようになった。</p>		<p>職員の意見を反映させるために、行事企画や係りを決め、担当者だけではなく、実施日までの過程を大事に取り組み、入居者も含め一致協力し実行している。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の要望により個別に外出している。通院等も同行したり、家族に代わって受診している。行事等の時は職員全員参加し、また各職員の役割りで必要な時間のみ出勤するなど工夫しているが求人不足にて、負担がかかることもある。夜勤のみの勤務ではなく日中の様子も十分に分り、入居者が安心できるようにしている</p>		<p>認知症ケアは個別ケアが十分必要なため、精神的に疲労感が大きいため、職員が自由に有休が取れ、研修に行ける、ゆとりを持った体制の確保に努力しているが、人員不足の折りから募集をしても補充ができず、管理者や一部の職員へは負担がかかっている。社会的問題となっている、人員不足と低賃金が常に脅かされていることは、事業所だけの問題とは思えない</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>認知症ケアに理解できず、またホームの方針に対して協力できない人が離職して行く。移動は最小限にしている。日頃から2ユニット間での情報交換や交流があるので、さほどダメージは見られない。通常から外出や来客が多くあるためあまり影響はないように感じている。居心地の良い環境になるよう努力している</p>		<p>職員がどの入居者でも対応が出来るように、週1回ユニット全体送りで、情報交換や、活動の打ち合わせをして、合同で活動する機会を設けている。働きやすい職場作りを全員で取り組んでいきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を実施、外部研修を受けるように資料を積極的に進めている。また職員会議にて研修の内容を報告し、報告書も全員に回覧している	管理者は常に疑問やケアに対して不安があれば相談するように伝えている、また直にミニカンファレンスを行うようにしている。管理者からは毎日の報告時に、アドバイスや支持を受けている
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会に参加している。市の協議会では、他の同業者と協働しながら質の向上に取り組んでいる。またお互いの行事に参加し、学び研鑽している	今年度から市の協議会では、研修会を始め多くの参加者があり、今後も積極的に参加していきたい。また職員は他ホームの様子や他の職員との交流の機会を作ることができた。同業者での行事や学習会に入居者と共に参加させていただいた。(夏祭りにバザーのブースに参加する事ができた)
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	別な部屋にて休息を取れる様になっている。慰労会を行い労っている。職員同士が、忌憚のない意見を言える雰囲気作りに努力している	○ 精神的に負担が多いので、ゆとりある勤務体制をしたいと人員確保に努めているが、希望通りに確保できず、負担をかけていることもあるが、今後も継続して求人募集していく。また職員はお互いに認め合い、助け合っていけるように、楽しく仕事ができるような職場づくりを目指し努力している
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	十分ではないが、職員の努力や成果を認めていると思われるが、現場で起きている状況や変化にはあまり理解していない。就業規則にのっとり、職員の健康診断、細菌検査など実施している	管理者・職員は常に向上心をもって努力しているが、運営者はキチンとした考えと計画性を持って、将来に向けて働き甲斐のある職場になるよう取り組む努力をしてほしい
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当職員が、利用される前には必ず自宅(生活の場)を訪問し、本人の話を聴くようにしている。また生活状況を確認し、入居されてからも訪問した職員が中心に関わるように努め、少しでも共通な会話ができるようにしている。本人の思いや不安を受け止め、どう支援して行ったら良いか職員と話し合い、本人が安心して頂く様に努力している	職員は本人の思いや不安を受け止め、安心してもらうように取り組んでいる。常に本人が今何を思っているか、何を支援して欲しいのか、ミニカンファレンスを行い、情報交換し、統一したケアに努めている
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初めて相談や見学に来られたときは、本人の症状を聴くと共に、家族の困っていること、望んでいることをしっかり聴いて不安や悩みの解消に努め、ゆっくりホーム内の様子をお茶を飲み、入居者と共に会話しながら観て、感じて頂いている	認知症ケアのあり方についての、話をさせて頂き、介護疲れを労うことで、涙される方もある。ケアの仕方が分からず困ったことなどのアドバイスをしながら、偕老ホームでのケアのあり方をお話している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的にはどんな相談事でも受け入れて、役に立つように心掛けている。相談に来られて、直に受け入れられない場合には、他のホームを紹介している。また他のサービスの情報や機関名を伝え繋いでいる		本当に在宅での生活が困難であるか、本人にとって、家族にとって、どうあるべきか一緒に考えるようにしている 入居を希望されていた家族がもう少し在宅で介護して見ますと又相談しなすと言われた家族もあった
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所に当たっては、いきなり連れてくるのではなく、本人へはホームへ入所することを伝えていただくようお願いしている。また入所するまでに本人も家族も慣れていただけるように、その方によって日程は異なるが体験をして頂いている。		本人と家族も知人も気軽に遊びに来ていただき、みんなと顔見知りになる事で、不安を和らげていけるようにしている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に一緒に行動することで、喜怒哀楽を共有している。入居者の昔の話の中から、好み料理・昔懐かしいものを取り入れるように努めている。細かいことでも手伝って頂いたときは、常にねぎらいの言葉掛けを行なって、感謝の意を表している		職員はが大変なときは自ら手助けして下さる。生活の中から昔のはなしや、知恵を聞き、また献立を決めたり、郷土料理などを教えてもらうこともある
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆を大切にしている。面会時には近況を伝え、本人の昔の様子をうかがい、一緒に悩み笑う事もある、細かいことでも気付いたこと等は、家族に提案して協力を頂いている。いつでも来ていただけるように面会時間は決めていない		来所持にはお茶を出して、また一緒に活動していただき、他の入居者の方と共にゆったりと過ごしていただいている行事などでは殆どの家族が来て手伝いをして下さるので感謝している
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が参加できる機会をつくり、共に過ごしていただけるようにしている。家族には本人の良いところ、努力している様子、困っていることも何でも伝えて協力を頂いている。本人が家族のことを気にされるときには、家族の言動を伝えることで、家族も大事に思っていることを伝えている		外出・外泊も自由にして頂いている。行事等に参加されたときは手作りの食事やおやつ、漬物を提供し、楽しいひと時を過ごすようにしている
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人・親戚の方の訪問はある。本人の希望があれば支援する。家族の協力や個人差がある。		本人への手紙や贈り物が来たときには、お礼の電話をかけるように声掛けをしている。いつもどなたでも気軽に立ち寄ってくださるように話している
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	出かけるのを嫌がられる方には、入居者の方から誘っていただいたり、食事の声掛けをして頂くなどしている。入居者の個性を尊重し、この仕事はこの方と認め合えるように、職員が配慮してお互いが仲良く支えあえるようにと努めている		職員中心のケアではなく、入居者を尊重し、共に暮らすケアであることを指導している。ここは偕老ホームです。お年寄りが仲良く協力し合って、笑って過ごすところですよとビラに掲示し又常に伝えている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所される時はいつでも遊びに来てくださるように伝えている 入院された方はお見舞いに行き様子を見ている		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアの中で、どのように暮らしたいかを聞くようにしているが、言葉で表現しない方には、表情や行動から汲み取り把握に努めている、特に誕生日にはお祝いを含め希望を実行している(個別で行きたいところに行く・好きな食べ物などを用意する)		楽しく暮らしていけるにはどうしたいか、どう支援していけばよいか常に考えて、職員間が共有していくように指導している 日々のミニカンファレンスやケースカンファレンス・ワーカー会議において検討している
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴やライフスタイルは把握している。入居されてからも家族にこれまでどう生きてきたか、性格、好きなもの、嫌いなもの等を機会あるごとに聞き、その方の個性や価値観を尊重するように努めている		入居時には新しい物を揃えるのではなく、今まで使っていたものを用意していただいている。仏壇を持ち込んでいる方には朝ご飯を供えるなど行っている
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、本人が「どうしたい」の視点から、できること、わかることを見極め、どこへ支援を必要としているか職員間で話し合い、自分でできることは少しでも継続できるように生活の中に取り入れ努力している		職員間の情報交換を短い時間でも話し合ったり、記録や申し送り時などで行なっている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書はケア日誌に綴じて、職員が目につくようにしている。一人ひとりに合った計画を立て、変化が合ったときは、送り時、みにカンファレンスを行い、ケアにつなげている。業務日誌や職員ノート、担当者会議録を通じて周知している		本人を含めてのミニカンファレンスを行ない、どうしたいか聞くこともある。問題点は常に職員や家族と意見交換をしているし家族の協力も得られている。みんなでより良いケアに努めている
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	画一的なサービスではなく常に変化するときは、常にカンファレンスを行い現状に即したケアを行うようにしているが、すぐに計画作成をする努力はしているが、遅れることもあるため、家族に伝え協力して頂くこともある		人材不足の折りから、計画作成者は管理者でケアスタッフでもあり事務仕事も行なわなければならない、ケアプラン作成が遅れがちになる。現状を家族にも理解していただいているが、頑張っ作成したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌には個別に記録する、気づきは入居者本人の言葉で記録するようにしている、連絡事項は業務日誌・職員ノートに記録し、また繰り返し送ることで、情報を共有し、より良いケアに努めている		ケア日誌に短期目標項目番号を記載し、毎日できているか、できなかった確認している。またケース会議に於いてモニタリングしたことを計画作成者がまとめている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は単独であるために、他機能性は活かしていないが、家族が都合付かないときの受診や、介護が大変だったり説明が上手くできない時は通院同行している。美容院、個別の買い物など必要に応じて支援している		家族ができないところ是对応している。訪問診療・訪問歯科・訪問理容もあり、選択していただいている。家と同じように捉えている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には運営推進会議のメンバーとして協力いただいている。警察の方は調査に来られている。消防署は避難訓練時に協力を頂いている。小学校や幼稚園の運動会や発表会には招待を頂いている。公民館の催しに参加している	○	近所の中学校の職業体験学習を受け入れるた。近所の小学生が訪問し、音楽会の招待状を持参し参加した。また読み聞かせや合奏を披露した
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用はしていないが、常に地域の活動に参加しているし、他のグループホームと交流して、バザーや行事などに参加しあっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター単独では行っていないが、地域保健福祉ネットワークにおいて、協働している		地域保健福祉ネットワークの構成は、包括支援センター、民生員、地域社協、福祉施設、老人会、医療関係、市役所関係等で組織されている。会報誌、市民向け介護・医療の情報と研修を行っている
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりが入居前の医療機関を利用されている。病状についてはご家族も十分に知っていただきたいとの事から定期受診は家族にお願いしているが、急を要する場合、また家族の状況により、ホーム側で受診や同行は行っている。		病状が悪化し、たびたびに受診になることもあるので、家族や職員の負担も増えてくるので、家族と共に相談し、訪問診療を利用されている方もいる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではないが、訪問診療の医師は良く話しを聞いて下さり、指示や助言をくださる。周辺状況がはなはだしときは、家族と相談した上で、専門医へ受診している。また受診時日頃の様子を細かく記載して情報提供している。また同行する		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在は必要と思われないので協働していない		緊急時は24時間対応の協力病院へ連絡している。また訪問診療医師へも相談できる
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は情報提供を行い、家族と共に医療と相談している。完治していなくても、認知症で十分な治療ができないと、退院させられることがあるが、本人のために受け入れている		退院後の指導や嚥下障害の方の食事の作り方や摂取の仕方について、入院先の栄養士やOT、ナースの指導を受けている
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルについては家族会で話し合い、今後は本人や家族の意向を聞き、本人にとって一番良い方法を、ホームが対応しうる最大の支援方法を検討していきたい	○	高齢で持病がある方、食事や水分が取れない方、食事・入浴・排泄に介助が必要な方、認知症状が重度な方、常にターミナルと考えている
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ほぼターミナルに近い方々をケアしているが、ホームにて亡くなられた方はまだいない。本人・家族の希望があり、利用者を支えるためにどう支援していったら良いか検討していく		家族会でも話し合っているが希望されてはいないし、医療の選択が安心と思われている
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人の了解を得て、関係機関とホームでの生活状況や、ケアのノウハウなど情報提供している		特養へ入所希望される方には、書類の提出協力や相談員へ情報提供している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩としての言葉掛け、内容に気をつけ、記録は個人情報として取り扱っている個人的な話は自室で聴くようにしている</p>		<p>職員へは入職時に守秘義務の誓約をしている。また会議等でも指導している</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人ひとりの能力に応じた、役割りづくりを行っている。本人が決定できないときは、その方が分るような話方をして、表現できるように働きかけている。また選択できるような場面をつくり、納得していただけるようにしている</p>		<p>食事のときは自分のものは自分で選び配膳している職員は本人の希望、関心、嗜好等は把握しているが自分で選び決定できるようにしている</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は入居者のペースをつかみ無理強いはしない。外出など計画していても、一人ひとりに意思を確認し、入居者の体調や気候を考慮し、その日の行動を決めている</p>		<p>人として、してはいけないこと以外は、あるがまま、何でも言い合える雰囲気づくりをしている</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理・美容は行きつけの所へ、家族や職員が同行し、外出が困難な方には、ホームへ来ていただくように依頼している。外出や行事の際には化粧をして、マニキュウを塗り、衣服を整えたりすると、とても喜ばれている</p>		<p>納涼会には浴衣をきて、とても喜ばれた</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立を入居者と共に決め、毎日一緒に買い物に行き、食材を選んでもらい、必ず食べたいものを購入し、三食とも職員と共に調理、片付けを行い、職員も同じものを一緒に食べている</p>		<p>誕生日には必ずその方の好きな物を振り入れている。また月に1～2回は外食に出かけ、好みのものを選んで食べて頂いている。またおやつだけを食べに出かけることもある</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>食べることは皆さん喜ばれるので、できる限る好みのものを提供している。飲み物やおやつは種類を多くし選択できるようにしている。また本人の希望を取り入れ、一緒に買いに出かけることもある。特に制限はしていないがお酒は行事など機会あるごとに提供している。</p>		<p>食事の雰囲気や音楽を大事にして、音楽を流したり、会話を楽しんだりゆったりした時間を過ごしている。季節の手作りのおやつや飲み物を入居者と作り、来客や家族にも提供している</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとり排泄リズムをつかみトイレで排泄できるように努めている。紙パンツやパット使用されている方もトイレ誘導をしている。また自室にトイレが付いているので待つこともなく、本人の訴えがあればいつでも誘導している。失敗してしまったときは、気にすることなく、自室でゆっくり更衣することができる。		入院されてオムツになって退院してこられる方については、排泄状況を記録して、オムツ外しに取り組み、できるだけトイレを使用するようにしている
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日朝から風呂の用意を行い、本人の同意を得てから入っていただいている。入浴が嫌いに入ってくださいないときは、言葉掛けや対応の工夫、チームプレイによって気持ちよく入っていただけるようにしている。季節によっての入浴も楽しんで頂いている		入浴が嫌な方は、時間をずらしたり、職員が交替して声掛けたり、他の入居者の協力を得たり、その気になったらすぐには入れるようにしている。どうしても嫌がられた時は無理示威せず、足浴や清拭で対応している
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動していただき、夜間は良眠できるようにしている。疲れた時は個別に休息していただいている。寝付かれない方や眠りが浅い方は、温かい飲み物を提供したり、会話や傍に居るなどしているが、本人が辛い状況があれば家族や医師に相談している		夜間良眠できるように、日中の活動に努力している。短時間でも1日1回は外気に当たるように、外に出かけるように努め、出かけられないときは、屋上やテラス、玄関周りに椅子があり、そこで過ごすようにしている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできること、好きなことを把握しているため、その方に合った役割を持っていただいている。行事・外出する機会を多くし、生活にメリハリができ、気分転換を図っている		職員が困っていると手助けして下さり、都度お礼を言うようにしているので、人の役に立つことは嬉しいと言われる。家族にも活動されていること、助けられている事などを本人の前で伝えている
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には小口現金預かりをしている、お金を気にされるときは、お預かりしていることを伝えている。食材や自分の物を購入する際には、できる方には支払って頂くようにしている		自分の物を購入するときは、自分で買い物に行き、支払いもして頂いている。買い物ツアーを企画し、本人がほしい物を買っていただいた。家族と相談し自分で財布を持っている方もいる
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出はとても好まれ、元気でいる元であることを実感していますので毎日の買い物から、外食、手作り弁当を持って公園など、あらゆるところへ出かけるように努めている		年間計画、月間計画を職員が担当し、季節ごとの計画を立て、担当職員のみならず、入居者も職員もみんなで準備し楽しく過ごせるようにしています。家族の協力も得ている
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日に希望を聞き、個別に出かける方もある。外出の機会を多く設け、家族や親戚の方と自由に出かけていただいている。現状が把握できないときは、職員が下見に出かけて行くこともある。家族と共に花見やバス旅行にも出かけている		近隣だけではなく、車で出掛けている。季節ごとの草花見学や公園散策、食事会等 バス旅行の下見などは、家族も一緒に行ってください、計画から協力して頂いている。今年は箱根へ紅葉見学と温泉へ行った

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望するときには、自由に電話できるようにしている。手紙や贈り物が届いた時にはお礼の電話を書けるように促している。自分の手紙は郵便ポストまで自ら投函するように同行している		手紙は本人へ手渡ししながら会話対応をしている
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間も設けていない。皆さんが喜んでいただければどなたでも歓迎している。入居者自らお茶を出して下さることもある。家族も本人の部屋だけではなく、リビングでお茶を飲んで頂き団欒している		いつでもどなたでも歓迎している
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に管理者からの指導されており、拘束しないケアを行っている。困ったときはカンファレンスを行い、直実行している、家族にも協力を頂いている		ベッドからの転倒の危険がある方には、布団に鈴をつけて気づく様にしている。立ち上がりの危険のある方には、職員の目が届くところに居て頂くようお願いして、動きたい時は気が済むように支援している。他の入居者の方にも協力をお願いをしている
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を理解している。センサーも使用していない。玄関や窓には鍵を掛けない、自由に出入りができるようにしている。居住が2階であるため、1階の協力を頂き、今のところ問題はない		職員は出て行くようすを理解しているので声を掛け、見守りをしている。家族にも鍵を掛ける弊害を説明し、理解して頂いている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングの担当を決め、その場を離れるときは、他の職員へ声を掛けることで連携し把握している。部屋で過ごされるときは時々声を掛けて、様子を確認している		自室から出てくると必然的に、リビングへ出てくるような造りになっているので、見守ることができる
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類は風呂場の棚に収納場所を設置し、鍵がかかるようにしている。包丁は収納箱に入れ、ワーカールームへ保管している。工作用のはさみやカッターは引き出しに入れている		裁縫の好きな方は、裁縫道具は自室に持っている方もある。爪切りも自分でできる方は自室に保管されているので定期的に確認させていただいている
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修を受けている。想定される事故の場合は職員で話し合い防止に努めている。火災や災害に備え、毎月避難訓練日を設けて実行している。また年2回は設備業者と消防署の協力で避難訓練や消火訓練を行っている。小さなことでもヒヤリハットに記録し、当日早急にミニカンファレンスを行い対策を行い職員間で共有している。家族にも伝えている		入居者の状態を把握することにより、対応策を検討し防止に努めている。誤薬がないように、個別の薬入れを設け、二重のチェックを行っている。また入居者がどのような薬を服用しているか、職員が把握できるように、薬の説明書をファイルしている。事故が発生した場合には市町村へ報告している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当、緊急時の対応マニュアルは作成されているが、全ての職員が訓練を定期的には行ってはいない。緊急時は協力病院や救急車要請が2～3分以内にはできる。運営者や管理者、協力職員も5分以内には駆けつけられる		今年は近隣の事業所と協力して、職員は救急救命法等の学習を実施した 外出時は保険証コピー・緊急連絡先、既往歴・服薬などの情報を記載した書類を持参し、緊急時に活用している
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や避難路の確保し、設備の定期点検も実施、入居者と職員は毎月1回避難訓練を行い、年2回は消防署、業者の協力により通報訓練や消火訓練、避難訓練を実施している。地域の総合防災訓練に参加している		非常用食料・備品は準備している。今後どんなものが必要か検討し追加していく。運営推進会議において地域の災害についても、ホームの方向性を話し情報交換している
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	職員は入居者の一人ひとりに起こり得るリスクについて、常に個別カンファレンスを行い対策を検討し全職員が共有し危険がないように努めている。家族に対しても状況を説明し協力を頂いている		家族には変化状況やケアの変更も細かく伝えているので理解していただいている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から一人ひとりの持病についての変化状況を確認しあい、情報も職員間で共有している。日勤リーダーを決め変化があったときは、バイタルチェックを行い、通常との変化状況を、直に管理者に報告し指示を仰いでいる。また状況を記録している		変化状況や対応については記録を行い、家族にも知らせている。受診する場合は状況を報告している
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されたときのお薬の説明書を確認している。入居者の方がどんな薬を服用しているか確認している。体調や服薬状況の様子を家族や医師に情報提供している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	学習会や研修会で理解している。食事にも注意している、日中の活動にも気を付けて、少しでも動いてくださるように工夫している。食事には野菜を多く取り入れ、水分も多く摂れる様に働きかけ、好みのものを取り入れている。便秘薬を必要とされる方については医師の指示通りに行っている		野菜が苦手な方については野菜ジュースなど繊維質の多い物を工夫している。水分にも十分気を付けている。便秘になると落ち着かれないので、日頃から特に注意している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔の手入れが大事であることは、学習しているので、毎食後声を掛け、介助が必要な方は支援している。口腔ケアの仕方などは歯科医師が訪問して頂いたときに教えていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや摂取量は把握している、常に栄養バランス良く摂れる様に献立を工夫している。一日の摂取量、水分量は記録している。毎月体重測定、健康診断結果、その方の疾患等によっても、食事内容・形態を個別に行っている		目安として1日30品目摂れるように心掛けている 食事が低下している方やミキサー食を用意している方については医師と相談し、補食となるようなものを処方していただき、また高カロリー食品を取り入れている
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員も入居者も帰所時には手洗い、うがいを徹底している。食事作りの際は手洗い後、消毒を行っている。対応マニュアルを作成し周知している。毎年研修会に参加している。1日に1~2回は換気を行うようにして、流行時には特に注意を払うようにしている。毎日のトイレ掃除は、ノロウイルス対策として除菌している		流しや洗面所には標語を貼り、手洗い、うがいを励行 感染予防研修で学んだ、感染予防グッズを入れたバケツを設置、入居者・職員全員がインフルエンザ予防接種を実施した
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所重点清掃日を設けている。まな板包丁は毎日消毒を行ない、布巾類は使用したものは洗濯に回している。食材は毎日購入している。冷蔵庫は週1回清掃し、在庫一掃している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには草花を植え、ベンチを置き入りやすい雰囲気作りを行っている。ベンチで外気浴、休憩、花火などをして過ごすこともあり、近所の方とあいさつしたり、会話を楽しんでいる		玄関の飾りは季節ごとに、入居者と共に作品を飾りつけて、季節感を表し、来訪者も目を止めて観て下さっている
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルには季節の草花を庭から摘んで飾るようにしている 廊下やリビングには、入居者と共に撮った写真や、共に作った作品を飾っている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやテレビのあるソファの場所、畳の場所があり、自由に過ごしていただいている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使い慣れたものを持ってきて頂くようにして、部屋の設定もできるだけ今までに近い状態をお願いしているので、安心されている。仏壇を持ち込んでいる方もあり、お供えをしている。入居者が好きなように使用されている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には常に気を配り、朝は外気を感じていただけるように、リビングの窓を開放し、掃除を行うようにしている。エアコンはこまめに掃除し調節している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の変化に応じて、低椅子、車椅子、キャスター付椅子を使用し、バリアフリー、手すりを設けている。入居者が作業しやすい調理台があり、立位が不安定の方には、椅子に掛けて作業をして頂いている		入居者の身体能力に応じて、ベッドや家具の位置関係を考慮している
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できること、できないこと、支援がどれだけ必要か、変化状況も職員間で共有し、混乱や失敗が無いようにしている。混乱されている時は寄り添い、失敗には過剰に反応せず、そっとフォローし失敗しても大丈夫であることを伝えている。部屋が分らない方には、本人が分るように名前や目印を付けるなど工夫している		深い認知症になられてくると、人により混乱が日内変動が激しくみられるので、一人にかかるケアに時間がかかることが増え、他の入居者の方のケアが疎かになったり、業務が滞ることがあるので今後検討したい
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関、テラス、屋上には職員・入居者・家族と共に草花を季節ごとに植替えて、水遣り、手入れをしている。またベンチを置き食事やお茶を飲んで楽しく過ごしている。屋上からは富士山が見え外出困難な方には外気浴や気分転換を図っている。外回りには植栽され、裏には菜園を作り、収穫を楽しみ、草取りなどには家族の協力を得ている		家族には外のベンチのペンキ塗りや植え木の手入れをしていただいた。また畑には夏野菜はもちろん今年は畑にさつま芋を植え収穫を喜び、焼き芋をして食した

. サービスの成果に関する項目		楓	
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は入居者のもてる力を発揮できる努力をしている。食事は入居者が食べたいものを決めていただき、買い物、調理の一連を一緒に行っている。外出の機会を多く取り入れ気分転換と体力保持に努めている。地域の行事に積極的に参加し、ホーム内の季節の行事に家族も参加していただき、共に楽しんでいる。職員も入居者も家族も楽しく過ごせることをモットーにしている。季節の行事企画、月間・週間アクティビティ企画は担当を設け、入居者と職員全員で準備していく過程を大事に、その日を迎えるようにしている。常に日々の様子から行事に至るまで、写真、ビデオを撮り、みんなで楽しんでいる。毎年写真展を行いホームの1年間の様子を観て頂いている。職員は入居者と共に、良く笑い・談話をしている。